

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 東京天文台 100 周年記念誌資料ーその 3-32-6 (岡山天体物理観測所建設工事写真)**

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞 346 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料ーその 1ー」、349 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料ーその 2ー」、353 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料ーその 3ー」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱 3 個に入っていたので 1 箱目をーその 1ー、2 箱目をーその 2ー、3 箱目をーその 3ーとし、その内容のリストを作成し報告した。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いもののかかってにピックアップして書いている。今回は 3 箱目の 32 項目の一部の 32 枚の写真について報告したい。第 353 号のリストには、

32. 横 A3 なめこ表紙でつづった岡山建設時のアルバム
の中の写真で、一部に 1960 年 (昭和 35 年) 3 月 2、19 日、4 月 30 日の日付がある。



写真 1



写真 2



写真 3

写真 1 の脚注には「74」バルコン手すり」、写真 2 の脚注に「74 “ドーム一部修理」と建設中のドームの修理とある。写真 3 の脚注には「74」望遠鏡とりこみ用「ニマタ」とある。



写真 4



写真 5

写真4、5には脚注はなく、この2枚の写真は188 cm望遠鏡ドーム下部の建物の一部でクーデ室を形成している部分のように思える。写真6の脚注には「地質調査」とあるから、ドーム建設の前の写真と思える。高架水槽が写っているが、これはドームからさほど離れていない。写真7の脚注には「天文台道路を望む、遥照山道路より」と書かれている。自衛隊が造成した道路が竹林寺山頂上に向かって延びている。遥か向こうの山頂の松林の左が188 cm望遠鏡ドームの予定地である。写真8の脚注には「原始林を望む」とある。原始林とはオーバーな、と思わないでもないが・・・。



写真6



写真7



写真8



写真9



写真10



写真11

写真11の脚注には「遥照山道路より天文台道路を望む 大峠池」とある。右中央に池面が見える。大峠池は鴨方から矢掛に抜ける道の峠にあり、観測所へ向かう道と遥照山へ向かう道路の4辻になっている。写真10には脚注はないが、遥照山のキャンプ場に鴨方町観光協会が掲げた立札である。写真11の脚注には「矢掛町防火帯」とある。岡山県南西部のこの地は山火事の多いところで、天文月報1961年2月号の石田五郎氏の記事にも山火事の記事が出てくる。



写真12



写真13



写真14

写真12の脚注には「74 敷地」とあり、まだドームが建設される前の状態である。写真13の脚注には「36 敷地」とあり、これもドームができる前の写真である。この2枚は一

連の写真の中ではずいぶん早い段階のものと言える。写真 14 には脚注がないので詳細は分からないが、橋が写っているから、新たに橋をかけているように見える。輸送路の整備と思える。



写真 15



写真 16



写真 17

綴じられた資料の順番で写真を掲載しているが、時系列はどうもでたらめである。写真 15、16、17 には脚注がない。写真 15 は 36” 望遠鏡ドームの建物部分の工事中の写真である。74” 望遠鏡ドームの建設が始まった頃には完成していたはずだ。写真 16 は大きさから 74” 望遠鏡ドーム工事である。写真 17 には日付の脚注があり「35 年 3 月 2 日」とあり、デリッククレーンが写っている。



写真 18



写真 19



写真 20

写真 17～22 までには日付が入っており、いずれも 35 年 3 月 2 日とある。写真 18 は 36” 望遠鏡ドームですでに完成しており、見学者の姿が見える。手前には軽自動車スバル 360 が写っている。写真 19、20 は 74” 望遠鏡ドームの内部構造造成中の写真であろう。写真 21 には大きなデリッククレーンが見える。写真 21 の手前には見学者の一団が見える。

写真 22～25 には 35 年 3 月 19 日の日付が脚注に書いてある。写真 22 には脚注に「官舎風景」とある。写真 23 も官舎の写真である。写真 24 は 74 “望遠鏡ドーム建設現場手前からの写真であり、工事の説明の掲示版が写っている。筆者は高校 2 年生であった 3 月に、この工事現場に来たが、掲示版の最後の文字だけは覚えている。「創設主任 矢野十郎」

とあった。



写真 21



写真 22



写真 23



写真 24



写真 25 (35. 3. 19)



写真 26 (35. 4. 30)

写真 26～32 には 4 月 30 日の日付が脚注に書いてある。写真 26 の細長い白いものは 74" 望遠鏡の大きな構造物と思われる。写真 28 に脚注には「通訳と打ち合わせ 末元」、写真 29 の脚注には「技師ホール、ローン氏の作業勇姿」とある。



写真 27



写真 28

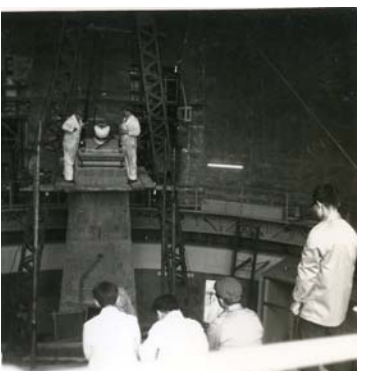


写真 30

74" 望遠鏡の組み立てにはイギリスのグラブ・パーソンズの技師が来て行ったので日本人には雄姿に見えたであろう。末元先生にも通訳が必要だったというのは意外であった。写真 30 の手前の人 は右から 2 人は乗本、石田両氏である。その左の 2 人はおそらく末元、清水氏だと思う。写真 29 の末元先生が通訳と話しているところ、写真 30 のグラブ・パーソンズの技師の雄姿の部分は拡大して、写真 29-2、写真 30-2 として載せる。

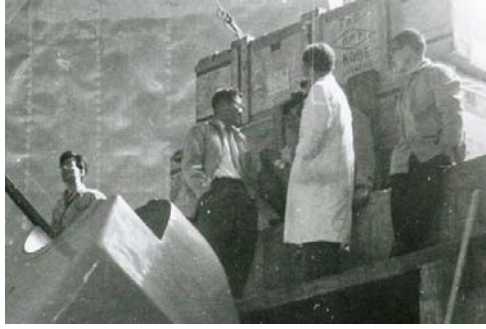


写真 29-2



写真 30-2



写真 31



写真 32

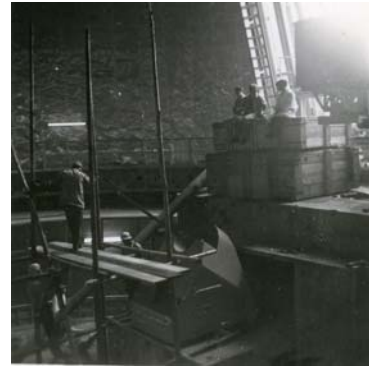


写真 33

写真 31～33 には脚注はなく、写真 31 は 36”ドーム、写真 32 は 74”ドームであり、写真 33 は写真 30 の場面を別角度から撮影したものである。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp